

●あおい損保の内部環境監査ワークシート(一部抜粋)

06年度実施計画および4月分実施状況の確認(PDCA)

①自己チェック	②内部監査報告	評価結果	③原因と対応計画 ④実施・効果確認	⑤フォローアップ 監査
1. 環境方針・目標のユニットメンバーへの周知 カードの配布	問題無し	○		問題無し
2. 目標の設定 目標の妥当性評価と具体的取り組み課題	<ul style="list-style-type: none"> OA紙について 目標の根拠が明確でない 廃棄物削減は、 前年度実績からすると 目標は十分達成可能 ○○部は 独自テーマ無し 	○	OA紙削減目標を 対前年5% (3200kg)に訂正	OA紙の 7月実績を 確認中

①自己チェック、②内部監査報告、評価結果、③原因と対応計画、④実施・効果確認、⑤フォローアップ監査を1枚のエクセルの表で見えるようにした。社内ウェブで公開し、各部門の競争意識も刺激した

ーはカエル、たまをはオタマジャクシ)のキャラクターをデザインした。

すると、徐々にではあるが環境に関する従業員の意識が高くなり、実際の環境活動も活発になった。小さなことだが各フロアで管理していた空調の温度設定を無断で変更されることもなくなり、社員の日常会話の中に「ビッキーとたまを」の話題が出るようになった。

今野氏は、「最も大きな効果があったのは、ISO活動に関心の薄かった営業部門が、このキャラクターを営業に使おうと自発的に考え出したこと」と話す。その結果、2005年10月の販促イベントではマスコットにしたキャラクターを登場させると同時に、クールビズ推進のうちわにも印刷した。2006年5月には、地元テレビ局の取材を受けたという。

同社のISO事務局長でマーケティングチームのグループリーダーを務める小幡秀樹氏は、「環境活動は義務感でするものと以前は思っていたが、キャラクターを作ったおかげで現場が自主的に盛り上がってくれるようになった。改めて強制ではなく自主的にやることの有効性を認識した」と話す。

ISO事務局長の事務作業の重荷にな

る内部監査の負担を軽くしたのは、あおい損害保険だ。本社のスタッフは1600人、内部監査も30部門を対象に20の監査チームが担当し、報告書を積み上げると高さは数cmに達した。ISO事務局は内部監査の時期になると、各部門との連絡や報告書の修正指示、督促業務などに追われたが、仕組みの改善で事務の負担を大幅に軽減した。

「見える化」で競争心を刺激

具体的には、内部監査の計画、報告書、是正措置、効果確認、フォローアップ監査の報告すべてを1枚の様式で管理できるように改め、社内電子掲示板に張り付けた。内部監査員一人ひとりが記入する仕組みに変えたのだ。

社内掲示板による「見える化」によ

り、内部監査を終了していない部門が浮き彫りになったため、各部門に競争心が芽生え、報告のスピードも格段に上がったという。

このケースは、当社(エコヒルズ)がお手伝いした。あおい損保CSR推進室の山田明部長は、「仕組みの改善を検討した時、エクセルの独自の表ソフト1つでISO14001のシステム全体を管理するという発想が良いヒントになった。私も大変楽になったが、各部門の担当者にとっては意味のわからない事務作業が大幅に減り喜ばれている」と話す。

3社の取り組みは、現場の立場にたって考えると、少ないコストで大きな改善の余地があることを教えてくれる。



1. 素早い報告で現場や業者の心をつかむ
2. キャラクターの作成で親しみやすさを作る
3. 仕組みを改善して事務作業を減らす